第５回　不登校に対する総合的な検討に関する有識者会議【会議要旨】

１　開催日時
　令和２年１１月１８日（水）１０：００～１１：００

２　開催場所
　小倉北区役所　西棟５階　５０３会議室

３　出席構成員
　９名　（構成員定数：１１名）

４　次第
（１）　議事
　①　報告書（案）について

５　会議経過

座長　　それでは早速ですが、議事を進めたいと思います。
　本日の議題「報告書（案)」についてでございます。
　まずは、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

（１）議題　報告書（案）について

根橋計画調整担当課長より説明【資料１～３】

座長　　ありがとうございました。
　これまでの会議の意見を踏まえまして、幾分か修正がされているかと思いますが、ただ今の報告書の案につきまして、ご意見とかご質問とかございましたら、挙手の上、マイクでご発言をいただきたいと思いますが、いかがでございますでしょうか。
　前回の会議で出されました意見が反映されているところが多々あるかと思いますが、その辺もよろしいでしょうか。
　では、特にご質問やご意見ないということで承ってようございますか。それでは、この報告書によりまして、取りまとめていくという形で、最終確認でございますが、よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

では、この報告書をもちまして、最終チェックを行いまして、会議の報告書として公表をしたいと思います。

修正とか発表日時につきましては、私の座長のほうに、またご一任いただければと思っておりますが、これもよろしいでしょうか。

ありがとうございました。

事務局とまた相談しながら、日時等々を決定していきたいと思っているところでございます。

はい、これにて報告書の案につきまして、承認いただきましたので、いったん終了をしたいと思いますが、事前に少しお話をさせていただいたと思いますが、本日最後の会議でございますので、ぜひ委員の先生方に一言ずついただければと思っております。

現時点では、報告書をとりまとめておられるところでありますが、今後も取組等々につきまして、役立てたいと思いますので、お１人３分程度で十分なので、今後に期待することなどにつきましてお話をいただければと思っております。

名簿順でいきたいと思います。よろしくお願いいたします。

構成員　それでは、作業に関わらせていただいて、一言お話させていただきます。

私は教育委員として参加させていただいておりますので、それこそこの報告書を受け取って、実際の施策に落とし込んでいくところも、関わることになります。

みなさんのご意見や思いが、できるだけ正確に反映されるように今後努めていきたいなと思っております。

報告書自体については、今回の特徴としては、個人的には、予防的側面についての記述がちょっと少なかったなという個人的印象はずっと持っているんです。

でも皆様のご意見を聞きながら、やはりまずは、現状として非常に厳しい状況がありますので、そういう特別なサポートが必要な方たちを中心に報告書をまとめさせていただいて、当然予防的な取組を今までもやってきておりますし、そこもさらに充実させながら、実際の小学校、中学校、高校では、取組を進めていくように気持ちをしっかりと持って教育委員会の中で発言していきたいと思います。

参加させていただき、どうもありがとうございました。

座長　　ありがとうございました。
　では続きまして、お願いいたします。

構成員　　この度は参加させていただきまして、ありがとうございました。
　すみません、思ったことをあまり考えもなく発言をしてしまいましたが、すべてしっかり受け止めていただいて、今回の修正にも反映していただいたなと思いますし、非常に感謝しております。
　その中で、ソーシャルワークという視線から少しだけ、これからの期待ということでお話をさせていただくのであるならば、これまでの本市の取組ということで、今回イメージ図もまとめていただいていて、大変可視化されてすごく分かりやすくなったなという印象を持っています。
　本当に万遍なく網羅をされているというような印象はして、広く支援を行える環境というのは、北九州市自体にあるのかなと感じています。
　しかしながら、フォーマルなものとかインフォーマルなものも含めて、これを今後どのようにコーディネートしていくのかというのが、これからの課題になってくるのかなと思っています。
　そのために、しっかりこういった情報、資源があるのだということを周知したりとか、あとはコーディネートをする、スキルを学校のほうで習得していくとかいうこと、そして、スクールソーシャルワーカーと専門職をご活用いただくということ、この辺のコーディネートというところを、また担っていくことができるのかなと感じました。
　それと、雑多な感想なのですが、これからまた支援を充実していくとなっていくと、また教職員の先生方の負担というのも非常に増えていく側面というのもあるかなと感じています。
　そういったところで、さきほど教員以外のマンパワーというのをどう導入できるかというようなご発言もありましたが、専門職の充実もそうですし、組織でどのように対応していけるかというところを充実していくということも非常に重要かなと感じております。
　以上の２点が、全体を通しての所感でございます。大変こちらも勉強になりました。ありがとうございました。

座長　　ありがとうございました。
　続きまして、お願いいたします。

構成員　　本日はありがとうございます。また、会議に参加させていただきまして、貴重なお時間をありがとうございました。

率直な感想としましては、生徒、あと保護者を見守る仲間がたくさんいるんだなということ、心強くとても思っております。

私もいつも通信制の高校生と、あとフリースクールに通っている小学生、中学生、高校生ですね、一緒に日々過ごしているのですが、やはり大人の責任はとても重いなということを日々実感しております。

これまで、その生徒が、どのような人と出会ってどのような大人からいろいろ話を受けて、どんな経験をしてきたかというところが、やはり今につながっているんだなと。なので、大人がどのように関わるかというのは、とても責任が重く、今後、今の生徒と関わっている中でも、身が引き締まる思いと感じております。

高校生は卒業してから、社会に出る生徒が結構多いのですが、必ず卒業してから遊びに来たときに言う言葉が、「先生、何でもっと厳しく教えてくれんかったん」とよく言われます。

話を聞いていくと、もっとこういうことを知っておきたかったとか、こういうことを教わっておきたかったということを社会に出て初めて実感していると、そういう話をよく聞くことがあります。

なので、そういう話も聞きながらも、もっとこういうことを伝えなきゃいけないんだなということを、日々自分の中で心に留めながらやっているところです。

今回の会議の中では、私は民間としての立場といいますか、ご意見させていただいたのですが、行政ではなかなかちょっと踏み込めない、難しいところがあるということを、先生からも伺うことがありますので、民間としてできることというのが、もっと自分の中であるのではないかと思っております。

なので、今後もいろんな機関と、いろんなところを、柔軟に立ち回れるところが民間の強みかなと思いますので、補完できるような形で、今後もできることをやっていきたいなと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

座長　　ありがとうございました。

続きまして、お願いいたします。

構成員　　いつもお世話になります。

今回、この会議に出席させていただくことになり、２０年間のスクールカウンセラーの業務の中で、出会った子どもたち、保護者、先生方の様々な思いを少しでもこの会議の中で、発言できたらなと思って参加していたので、何て言うんですかね、しつこかったり、くどかったり、それは聞いたというような発言をまた繰り返してしまったりしたことを皆様にお詫びします。思いとして受け取っていただければ幸いです。

私たちは子どもたちの人生の基礎となる、本当に大切な学齢期に関わっている責任というのがあると思っています。この学齢期はどのように過ごすのか、学校に行けない、でも大人になっていく子どもたちですから、その学齢期に学校に来られていなくても、何らか大人になっていくことを考えながら、関わっていくことがこれからもできたらいいなと思います。

この報告書をこれから具体的にしていく中で、もう本当に最後の最後なんですが、２点要望です。

１点目は、本当にいつもしつこかったのですが、報告書１２ページにあります、校内適応指導教室のことです。校内適応指導教室が充実することによって、学校に来られていない子どもさんがそこに来やすくなる。あるいは、同じ適用指導教室に来られている子どもさんが、教室に行きやすくなる。校内適応指導教室がどのような場であるかによって、子どもさんの体験が変わってくると思います。

それは少年支援室という校外の適応指導教室も同じで、その役割はとても大きいと考えています。

学校においては、本当に先生方お忙しいので、できたら、その場づくりの来やすい、来たくなる校内適応指導教室という場ができるための、担当の先生がおられて、それは毎日じゃなくても、月水金であっても、火木であっても、午前と午後のどちらかであっても、専門の担当の先生がいるという、そこに行ったら必ず誰かがいるという場になることを願っています。

いろいろ予算の関係もあるお話もありましたので、あまり言えないところではありますが、地域の方々のご協力を得るとか、スクールヘルパーさんのお力添えを得るとか、校内適応指導教室が充実していくことを心から願っています。

それから、２点目ですが、基本的方向性５の、今後の新たな取組に関する提言のポツの３番目です。

「児童生徒への適切なアプローチが取れるように本市の組織の在り方について、改めて見直す必要があれば組織改正を行う」というこの点についてなのですが、小中学校の児童生徒が通っている少年支援室は、これは何度も申し上げてしまいましたが、学校とのより密な連携のために、少年支援室を教育委員会の管轄としていただくような方向性をお考えいただければという要望です。

もう１点ですが、現在、不登校児童生徒に関しては、指導第二課が担当されていると思います。指導第二課は、本当に現在学校が抱える多様なあらゆる問題に関して、解決のためのサポートを行っていると感じています。

その二課に、新たにまたその不登校児童生徒への対応という業務がどれぐらい大変なのかなと考えますと、組織の強化ですとか、専門的な部署ですとか、そういったことも今後お考えいただければという要望です、以上です。

最後に、今回「はじめに」ということで、座長が事務局と一緒に考えてくださったというご説明があり、ありがとうございました。

とても思いのこもった文章になっていると思うのですが、もし許されるならですが、一番最後のところに、会議の構成員としては、心から願っておりますというところ、座長のお言葉ということの「はじめに」であれば、それならそれで結構なのですが、もしお許しいただければ、「構成員一同」としていただくことで、構成員一同の言葉にしていただけたらという願いもあります。ご検討いただければと思いました。以上です。長くなりまして失礼いたしました。

座長　　ありがとうございました。

また事務局と相談させていただきたいと思っております。

では、続きましてお願いいたします。

構成員　　この度は、参加させていただいてありがとうございます。

最後の最後に、嫌なことを申し上げるようで、申し訳ないのですが、私がこの会議に参加の連絡が来たときに、正直参加する必要があるのかなとか、参加しても声は届かないのではないかなという思いが大きかったです。

その１つの原因としては、昨年度、私もＰＴＡ代表ですので、いろんな地区の保護者の方からいろんな相談を受けます。

その中に、不登校の関係の保護者の方もいらっしゃって、できる

ことなら、私みたいな人間が入るよりも、そのお子さんと保護者とその学校の先生たちで解決できるのが一番よいと思って、直接お話をしてみて下さいという話から入りました。

そのときに、どうしたらいいだろうかということで、最終的に教育委員会にもご相談を差し上げたのですが、そのとき返ってきた言葉が、お調べはしていただいたのですが、「そのお子さんにも問題があります」というのが最終的な回答でした。

その言葉を受けて、この会議に出席するように促されときに、今のこの現状で困っている子どもたちが本当に困らなくなるような現実って迎えられるのかなというのが、率直な意見でしたので、熱い思いは持っていたけれども、心の中は正直こんな気持ちでした。

ただ、本当に他の先生方もものすごく真剣に考えていらっしゃいますし、これが机上の会議で終わってほしくはないんですね。私たちがいくらこんなに頑張って話をしても、それが現場におりなければ、子どもたちのなんの支えにはならないですし、そこが一番だと私は思っています。

ただ、今日ちょっと嬉しかったなと思うのは、やはり資料２の１３ページ目にある基本的方向性３番、児童生徒、本人だけではなく、家庭も含めて総合的な支援を行っていくこと。私はもうこれにつきます。保護者を支援するというこの文章の中には、そう書かれていますが、生徒児童に対して、一生懸命なフォローができて、そのご自身が前に進もうと思ったときに、保護者に支援なんかいらないんですね。保護者はあくまでも子どもたちが前を向いてくれているその姿を見るのが、保護者にとっては、力強いことなので、保護者に何とかということよりも、子ども自身、困っている子どもを１人でも多く助けていただけるような方向性にしていただきたい。

それから、資料３番目にありましたカラーの分。私はもうこの言葉に尽きるなと思います。裏面になるのですが、今後の取組の方向性の四角の３番目。誰一人取り残さないという SDGs の理念に基づきと書いてありますが、最後に登校のみを目標とするのではなく、私はもうここが一番強く言いたいです。

不登校会議だから、できるだけ不登校の数を減らそうという会議になっているかもしれないですが、子どもの心が傷ついているのに、学校に行ったって、また同じことの繰り返しになるのではないかなと思っているので、私はこの登校のみを目標にすることではない方法を増やしていっていただきたいなと思っています。

あとはもう教育委員にお願いをして、この思いを届けていただけたらと思います。長くなりましたが、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

座長　ありがとうございました。では、次の構成員お願いします。

構成員　ありがとうございます。まずは、この会議に参加させていただいて、本当に感謝いたします。改めて、社会の出口となる中学校の責任ですね、痛感いたしました。

まず１つは、中学校、学校という狭い社会だけで、捉われるんじゃなくて、やはり相談の窓口をいかに多く持ってチャンネルを増やしていくかというのが、学校の使命でもあるんではないかと。

それと最後に卒業前、卒業後を通して、最後までつないでいって、責任を持つという姿勢を持っていかなければいけないんじゃないか、卒業したら終わりということは絶対にありえないということで、再認識できる会議でした。

本当にありがとうございました、以上です。

座長　ありがとうございました。では、次の方お願いします。

構成員　この会議に参加させていただいたのと、私にとってもこれから先の自分の指導の在り方も考える機会になりましたし、会議に参加しながら、何よりも今までの経験の中で、学校に行き渋っている子ども、行かせたいけどなかなか動いてくれない子どもたちと格闘しているお家の方々、それから毎朝迎えに行って、学校に連れて来て、それから指揮をするという本当に一生懸命動いている教職員、いろんなことを頭の中に描きながら、そのためにじゃあここで話すことで何ができるんだろうということをいつも思いながら、会議に参加しておりました。

私は小学校の教員なので、どうしてもこれまで長いこと見てくると、子どもたちも、それから社会ももちろんそうですが、家庭の在り方も大きく変わっている中で、何度かここで発言させてもらいましたが、学校というシステムに馴染みにくい子どもがいるということが、確実にあります。低年齢にもあります。

もう小学校に上がってくるときから、幼稚園に何度かしか行けていません、所属だけしていましたという子が上がってくるという状

況の中で、この子たちが社会的自立を目指す、そのためにこの学齢期の間にできることはどんなことなのだろうということが、非常にいつも悩みの種です。

いろんな機関にも相談をしています。たくさんの相談機関もあり、学校外のいろんなアプローチを取れるところもあるのですが、やはり、このことをまず多くの人が「そうなんだ」と、「こういうやり方があるんだね」と知るきっかけを、この会議を通して、ここから発信する、提案する、提言するということで、増えてくると、また違ってくるのかなと思うと同時に、学校ももちろんそうなのですが、相談先、相談機関の適切なアプローチを取るためのいろんな手立て、その先々の、やはり先ほど構成員から話がありましたが、結局そこで対応する人なんだと思っています、その子を救うのも救わないのも。そうなので、それぞれの機関とか、役所も含め、学校、人をしっかり育てていくこと、一人一人、誰一人取り残さないというのも、しっかり胸に刻んで、一人一人を育てていくということに責任を持って取り組める人を育てていかなければいけないなということを痛感しています。

その中で、これから先ますます小学校で力を入れていかなければと思っているのは、構成員もおっしゃった予防的な取組です。

自分が自分であることを認めることができる自分であること。そんな心をしっかり育てていくことが、まず予防的な取組の一歩かなと思っています。

参加させていただいたこと、大変勉強になりました。ありがとうございました。

座長　ありがとうございました。

最後になりました、失礼いたしました。次の方よろしくお願いします。

構成員　本当に今回の有識者会議、大変勉強になりました、ありがとうございました。

特別な支援を必要とする特徴を持っている子どもたちの話が後半で出てきました。子ども自体が感じている困った感、それから発達の課題につきると思います。

子どもの成功体験が、教師の成功体験でもあります。そして、またこれが教師の新たな指導の意欲につながっていただきたいという

のが、それが大きな私の希望です。

発達障害のある子どもで、二次障害を有する子どもたちも、たくさん出てきています。そういう子どもたちや、不登校傾向にある子どもたちを有する中で、情緒の安定を図る必要があるタイプには、ぜひ特別支援学級と通常の学級の間になるような、柔軟な取組の中で、つまずきに合わせた指導が行われるような、今ある資源を使いながら、リソースルームのような場所というものも必要ではないかと思っております。

先ほど「二次障害」と言いましたが、社会的自立を目指す上では、やはり対人スキルの方を、それから感情コントロール、それから対人スキル、それから問題解決能力、どれも欠かせない能力ですが、こういう能力を身に付けることが大切だと思っております。

これらの能力のどれ１つでも学ぶ機会がなければ、社会ではうまく生活できずに、不登校やひきこもり、こういうことを繰り返してしまうと思います。

学校での集団活動を通して、自然に身に付いていくというのは、とても多いです。

発達障害や気づかれにくい軽度の知的障害を持った子どもたちで、不登校になっている子どもは大変多いです。自然に身に付けるのは、なかなかこういう子どもたちは難しいです。

それに学ぶ機会を意図的につくらないと、たぶん多くの問題行動を招いてしまって、何て言いますか、非行のリスクもまた今後高くなっていくのではないかということを危惧しております。

ちょっと長くなりましたが、今後多様な学び方を目指す中で、私たちが考えていかなければいけないのは、先を見据えた、想像力を駆使して、先を見ていく、その必要はあるかと思っております。

先日コムシティで、ひとみらいプレイスの文化祭がありました。

ここで、臨床美術を出した子どもがいて、私が以前勤めていた中学校で不登校を起こしていた子どもです。

私が黒崎少年支援室に移ったときも、その子とまた出会いがありました。臨床美術を勧めて、今回３０点、彼のを出すことができました。

久しぶりに会ってちょっとお話をしたのですが、その子が言っていたのは、「学校はやっぱり行ったほうがいいって後輩には言いたい」と言っておりました。

それが、例えばもう中学校を卒業した子どもの大きな心の変化と

気持ちではないかなと思いました。
　今回本当に参加させていただきまして、ありがとうございました。

座長　　構成員の先生方、ご意見ありがとうございました。
　いろんなご意見、それから今からの課題もまた出てきたかなということを感じるところでございました。ぜひ引き続き先生方にはまたご意見等いただければと思っているところでございます。
　事務局におかれましては、本日の意見を踏まえて、ぜひ北九州市におきます不登校対策を進めていただきたいと存じ上げております。
　では、本日の議題は以上でございます。
　最終回でありますが、私から一言ご挨拶をさせていただきたいと思います。
　各構成員の先生方のおかげ様を持ちまして、また教育長、事務局の方々のおかげ様を持ちまして、この報告書が完成をした次第でございます。厚く御礼を申し上げます。
　今回の報告書は、現状の共有ということが多かっただろうと感じておりますし、それに対する対策ということを考えていきながらの議論だったと思います。
　このコロナ禍の中、大きく学び方の変化を余儀なくされてくるかと思いますが、この不登校に関しましても、長期的なスパンの視点を持ちながら、これが終了ではなくて、これから対応をしていく、何度もモニタリングなどを重ねていきながら、より良いものになればいいなと思っているところでございます。
　まさしく、誰一人取り残さないようにということが、展開されればと思っています。
　構成員の先生方や事務局の方々のお力添えやお働きに心より感謝いたしまして、本会議を閉じたいと思います。本当に、先生方、事務局の皆様方、ご協力ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
　それでは、事務局のほうにお返ししたいと思います。
　よろしくお願いします。

事務局　　ありがとうございました。
　長期間に渡りまして、当会議にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。皆様にご議論いただきました報告書の内容を踏まえ、今後の施策を進めてまいります。

最後になりますが、本日の議事録につきましては、市のホームページに掲載する予定です。もし、本日の会議の発言で修正が必要な点がありましたら、１１月２６日までに事務局までご連絡をください。議事録全体の確認は今村座長にお願いをいたします。

それではこれを持ちまして終了いたしますが、最後に教育長の田島が皆様にご挨拶を申し上げます。

教育長　５回に渡りました、この会議の終了にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

構成員の皆様におかれましては、昨年の１１月から始まりました、この１年間長い間に渡りましたが、それぞれのお立場から、日頃の活動や経験を通した貴重なご意見、またご提案をいただきました。

心より厚く感謝いたします。特に座長におかれましては、議論の取りまとめにご尽力をいただきました。厚く感謝をいたします、ありがとうございました。

これまで、皆様には不登校に対しましての総合的な検討を重ねていただいて、本市のこれまでの取組を踏まえた上で、今後の取組に関します６つの方向性を示していただいたところでございます。皆様方の力強い力添えに改めて感謝申し上げるところでございます。

今後は、私ども教育委員会をはじめといたしまして、市長部局でありますます関係部局におきまして、今回いただきました提言につきまして十分に検討いたしまして、不登校の未然防止や不登校の子どもたちの社会的な自立が実現するように取り組んでまいりたいと考えております。

この１年間でございますが、新型コロナウイルス感染症の流行、あるいはまたそれによって、子どもたち１人１台のタブレット端末を整備するという、GIGA スクール構想が進んでまいりました。教育を取り巻く環境が非常に大きく変化いたしました。

国におきましての動きでございますが、１１月の上旬、確か１１月２日であったと思います、衆議院の予算委員会の中で、萩生田文部科学大臣が、ICT を活用した不登校対策、学習シーンは大いに結構だと、ツールとして有効活用するのは非常に結構なんだけれども、最終の目的は、やはり子どもが学校に来られるような環境づくりであるというような発言をされておられます。

この国の不登校対策というものにつきましても、これからもいろいろ議論をされると思いますので、注視してまいりたいと考えてお

ります。

　どうぞ皆様方におかれましては、今後とも本市の教育行政につきまして、格別のご指導やご鞭撻を賜りますようにお願い申し上げます。

　最後になりますが、本日は季節外れの暖かさになっておりますが、また一気に寒くなる寒暖の差が激しくなると予想されております。

　新型コロナウイルスの第３波も北のほうから、段々とこう下がってきておりますので、どうぞ皆様方には健康に充分ご留意されまして、ますますのご活躍を祈念しております。本当に皆様ありがとうございました。

　私からの挨拶とさせていただきます。

事務局　　それでは、これを持ちまして、第５回の会議を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。